

お米と一緒に、たくさんのコミュニケーションが実現していました



野川で遊ぶまちづくりの会

田んぼの学校



私は東京都調布市育ち。小さい頃は田んぼで遊んでいましたが、10年程調布市を離れ、また調布市に戻ってきたところ、田んぼはほぼ全て住宅地へと変わっていました。その後子どもが生まれ、田んぼで遊ばせてみたいと思い、はるばる新潟県まで行かせたこともありました。しかし自転車で10分ほどの近場に「田んぼの学校」という素晴らしい田んぼの活動があったのです！その活動は米作りから派生した様々なコミュニケーションが生まれていました。



この「田んぼの学校」のスゴイ点！

お米作りを最初から最後まで
沢山体験できる
(田植えと稲刈りだけでない！)



地域のお父さんが立ち上げて
30年経つ任意団体
(NPO や市が絡んでいない！)



校長先生の尾辻さんにお話聞かせていただきました



コンピューターソフトを作る仕事に従事しながら田んぼの学校を支えてきた、とてもパワフルな校長先生！

毎日5時15分に目を覚まし、田植え後はほぼ毎朝田んぼの見回りをして Facebook に田んぼの様子をあげてくださいます。

なぜ沢山体験ができるの？

土と水がセットになって田んぼが成り立っていますので、田んぼで起こっていることを全て知って欲しいからです。

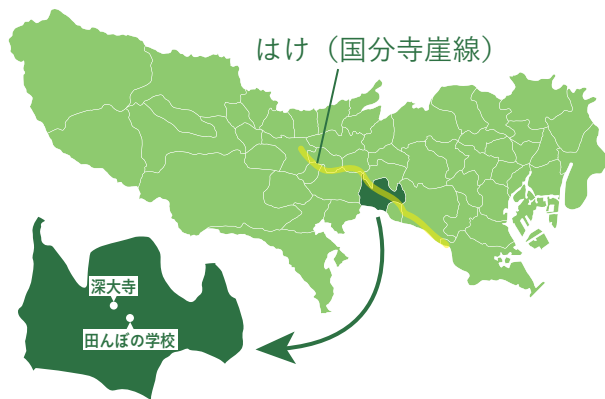
今と昔で変わったことは？

昔はお母さんとお子さんだけの参加が多かったのですが、最近はお父さんの参加が増えました。

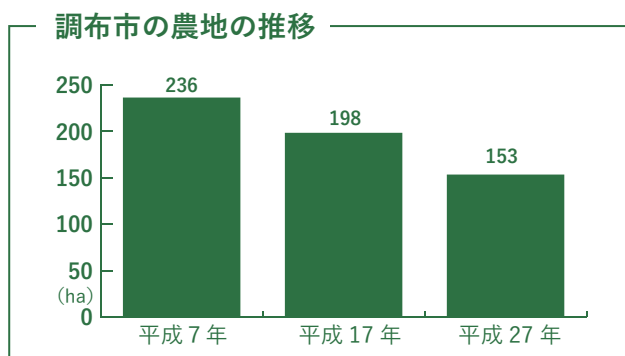
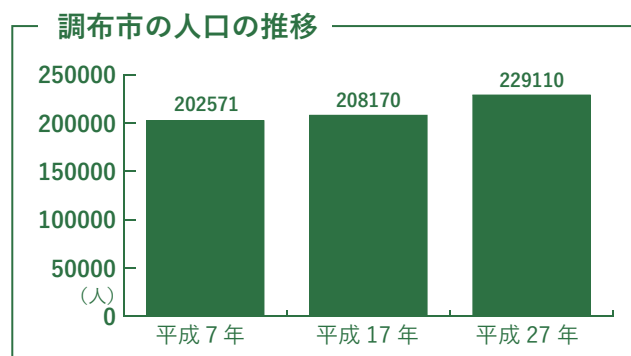
大変だったことは？

天候の関係で平日4時ごろから田植え作業をして、その後仕事へ行ったことです。今より人数も少なかったので大変でした。

「田んぼの学校」の場所について



東京都調布市の真ん中の佐須という地域に田んぼがあります。水は横を流れる佐須用水から引いていて、この水は「はけ（国分寺崖線）」からの湧き水が深大寺にある都立農業高校神代農場に湧き出して、この用水に流れ、野川に出て行きます。「はけ」からの湧き水を集めて流れている野川は特別な川だと思います。



ここ20年で、人口は13%増えたものの、農地は45%減っています。



どのように「田んぼの学校」は築かれましたか？

30年程前、自宅付近にある野川で子どもが遊んでいないことにショックを受け、ご近所仲間と3人で「野川で遊ぶまちづくりの会」を立ち上げ、野川や佐須用水路の生き物観察などをされていた。



そのうちの1人が「田んぼやりたい！」と発案。知り合いだった農家のTさんが2年程前に田んぼを辞めており、援農のお願いをしたところ、すぐ快諾してくださった！



1991年、「田んぼの学校」と名付けて活動スタート！米作りの知識はほぼTさんがご教授してくださった。当初は化学肥料も使い、消毒もしていたが、2年ほどで無農薬、有機肥料に。



その後口コミで会員数が増えていき、今なお30年も続く学校となりました。

春の 田んぼの学校

4月4日 入学式

田んぼ近くの公民館を借りて入学式です！
自己紹介や、今後の大まかな説明が行われ、最後にお米の種・種籾をもらいます。
その後まっさらな田んぼに、まだ田んぼは広い原っぱなので、子ども達は楽しそう。



お米作り 1

4月17日 種籾選別と芽出し

ここは各家庭で行います。
入学式で受け取ったお米を塩水につけて、確実に芽が出る栄養のつまったお米を選別し、お水につけて芽を出させます。
もやしみたいに芽を出させすぎないように注意！



お米作り 2

4月23日 苗床づくり、種まき

苗床（なえとこ）は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。

発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。
防鳥のため、苗床全体にかまぼこ状にネットをかけ、水路に水を引き込みます。



4月24日 田んぼの植物観察

専門の方がきてくださって、田んぼの植物や生き物について観察しながら説明してくださいました。
子どもに人気で田んぼの水路でも見かけるアメリカザリガニは田んぼの敵で、今後特定指定外来種になるので、持ち帰れなくなるそうです。



お米作り 3

5月8日 堆肥入れ・荒起こし

堆肥入れは、特別栽培米の米ぬかを堆肥として田んぼにまきます。

くろつけを行うために、畦の草を刈り取り、畑の草取りも一緒に行い、田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。





田んぼの学校

お米作り 4

6月5日 くろつけ

「くろ」とは畦（あぜ）のことです。
「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。
泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。



お米作り 5

6月11日 しろかき

しろかきは、田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にして平らにし、田植えの準備をすること。
大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならずのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。



お米作り 6

6月12日 田植え

植える苗は2、3本くらいで、大きな苗を植えるようにし、合図があったら、自分の持ち分に植え付け、植え付ける場所は、紐の手前側に。
自分の分が終わったら、一歩下がって、これから植え付けるところを手でならします。



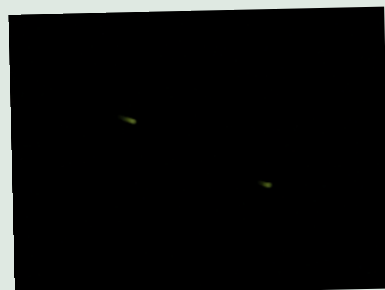
7月15日 柏野夏祭り

田んぼの近くにある柏野小学校の夏祭り、毎年炭火で焼く本格的な焼き鳥の屋台を出しています！
近年は鶏肉を外国産から国産に変え、仕入れ値が倍以上かかり値上げしたのですが、相変わらず好評です。



6月18日 蛍鑑賞会

田んぼ近くの野草園では蛍を見ることのできたので、田んぼの学校でも毎年蛍鑑賞会があったのですが、ここ何年かは蛍の生育不良で開催されていません。
また見れるようになることを祈ります。



秋の 田んぼの学校

お米作り 7

9月4日 案山子作り

調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待している案山子づくり。一家族で案山子一体作っていただきます。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。



お米作り 8

10月8日 稲刈り

種まきをしてから6ヶ月弱、田植えをしてから4ヶ月弱、ついに稲刈りです！
まず刈ったお米のハザ掛けを4列準備し、その後稲刈り。
稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。



お米作り 9

10月30日 脱穀

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクが必須です。



お米作り 10

11月6日 粃摺り・精米

脱穀で取った稲の実を粃といい、種の状態で、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。粃から外皮（粃殻）を取り除いて「玄米」にする作業が粃摺りです。この言葉は文字どおり粃を擦りあわせることが語源になっています。



11月23日 収穫祭

ついに収穫祭です！出来たお米でお餅をつきます。出来るだけたくさんのお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思います。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。





田んぼの学校

お米作り 11

12月18日 落ち葉拾い

これまで30年間、無農薬・有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れていて、堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、収穫したお米を精米した時に取れる米ぬかなどです。

落ち葉、米ぬかは、混ぜ合わせて寝かせます。



お米作り 12

2月5日 堆肥天地返し・縄緬い

お米作りでスゴイことは、収穫されたお米だけでなく、籾殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。稲藁は、縄や、草履、米俵などに使われてきました。堆肥の天地返しのと、稲藁で縄を緬ってみます。



12月4日 炭焼きキャンプ

田んぼの近くにあるカニ山で、炭焼きやしめ飾りを作りながらカレー等を作って楽しむイベント！カニ山にはコナラやクヌギが残っていますが、すでに薪や炭焼きにするには不向きなほど大きくなっています。



1月14日 どんど焼き

かつて、農村の集落ではどこでも行われていた正月行事のどんど焼き。

佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して20年をこえる事業になっています。

どんど焼きの熾火^{おきび}で団子を焼いて食べることも♪



3月12日 卒業式

この12ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文が宿題で出されており、それを卒業式で読み上げます。

田んぼで取れたお米でお赤飯、おにぎりをほおばりつつ、この一年をみんなで振り返る卒業式です。



現在のメンバー構成



立ち上げメンバーの校長先生・尾辻さんと奥さんが主体となって運営



5年ほど田んぼの学校に参加した人がスタッフとなり運営をサポート



他25組みほどの家族が田んぼの学校に入学している



「田んぼの学校」の利点をまとめると

地域の人との
交流



伝統文化の
継承



自然を
知る



災害時に
避難可能



地球温暖化の
緩和



いいこといっぱい！

調布市が発表！

深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画

2014年、田んぼの学校の夢であった、調布の田んぼや自然を残す計画が調布市でも上記の名称で始まりました。これによって、相続で農地が売られて宅地になってしまう土地を調布市が買取り、環境資源保全をすることになったので、現在の田んぼの学校の田んぼから徒歩5分程のところにある田んぼや畑は、残されることになりました。



しかし現在、田んぼの学校は存続の危機に

30年間援農による米作りしていた田んぼが所有者の息子さんの就農のため使えなくなったそうです。

現在（2021年8月）、今の田んぼの斜め前にある農地で援農ができないかと交渉中ですが、まだ確定はしていないとのこと。

素晴らしい取り組みなので、ぜひ残していただきたいと切に願っています。



この春から我が家も田んぼの学校に入学し、新型コロナの影響で色々制限はありますが、様々な体験をさせていただきました。

普段習い事は全面拒否する小1の息子ですが、田んぼの学校は大好きで毎回楽しみにしています（3歳の娘はまだよく解ってない模様）。

お米作りからのコミュニケーションは、お米作りが盛んな地域では普通なのかもしれませんが、調布市育ちの私には大変新鮮！

このような会が続き、各地に増え、より良い日本になることを願います。

■WEB ページ・トップ

それぞれ今の状態に転じた点を漢字で表して
統一感と興味を抱いてもらえるようにデザインしました。

コミュニケーションデザイン展夏期 コミュニケーション研究II

再“転” “転”換 地“転” 笑“転” 一“転” 発“転”



現在につながる6つの“転”換

はじめまして、ムサビ通信の学生6人による“転”展プロジェクトです。2021年度コミュニケーション研究II WEB展「転」展」にご来場いただきありがとうございます。

“転”展とは？

想いを込めて制作した作品をご覧ください。

地“転”
賞金制バザールをきっかけに今のまらの姿へ

発“転”
一人の発案から、30年間も続く田んぼの学校に

一“転”
東日本大地震で一転、自主上納金の徴収に

笑“転”
他県出身ながら「東京住みます芸人」に任命

再“転”
2度の転換から人気フルーツサンド店へ

“転”換
日本各地を旅し、高尾の地で古本屋を開店

**WEB展“転”展はいかがでしたか？
ぜひアンケートにご協力ください！**

2001年から19年続いた「コミュニケーション研究II」の授業内展示は、今回で最後になります。展示全体のアンケートに答えると、過去のコミュ研IIの展示ポスターがみることが出来ます！

[展示全体のアンケートに答える](#)

Twitter icon

©2021年 コミュニケーションデザイン展夏期 上へ↑


■WEB ページ・田んぼの学校

田んぼの学校は一人のお父さんが発言したことから始まった
と伺ったので「発」という字を選ばせていただきました。


コミュニケーションデザイン展夏期 コミュニケーション研究II

再“転” “転”換 地“転” 笑“転” 一“転” 発“転”


発“転”



野川で遊ぶまちづくりの会「田んぼの学校」



私は東京都調布市育ち。小さい頃は田んぼで遊んでいましたが、10年経調布市を離れ、また調布市に戻ってきたところ、田んぼはほぼ全て住宅地へと変わっていました。その後子どもが産まれ、田んぼで遊ばせてみたいと思い、新潟県まで行ったこともありましたが、しかし自転車で10分ほどの距離に、野川で遊ぶまちづくりの会の「田んぼの学校」という素晴らしい田んぼの活動があったのです！




この「田んぼの学校」のストーリーは……

- 1: 稲刈りを1から10まで体験できること
- 2: 地元のお父さんが選り立て上げて、30年間も続いていること

こちらの点！
これまでの会は調布市近郊でみたことはありません。生き物観察なども選んで、子ども達にも大人気です。

“転”ポイント

一人のお父さんが「田んぼやりたい！」と言ったこと




最初は近所仲間と3人で「野川で遊ぶまちづくりの会」を立ち上げ、野川や佐須用水路の生き物観察などがされていました。そのうちの1人が「田んぼやりたい！」と発言されたことが、この“転”ポイント。その頃口コミで会員数が膨らんでいき、今なお30年も続く学校となりました。

そんなとても素敵な田んぼの学校なのですが、現在とても大きな危機に直面しています……

～続きは“転”示パネルへ～

リアル展示で観覧予定だったパネルデータです。
ぜひご覧ください！



お米と一緒に、たくさんコミュニケーションが育っていました

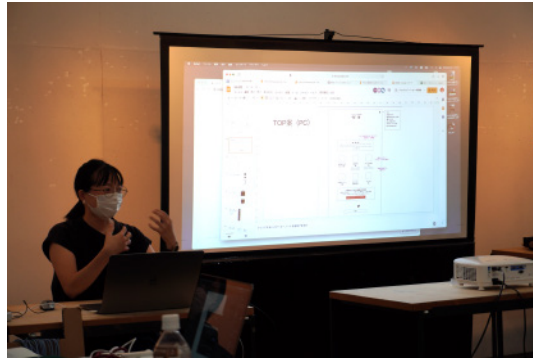
野川で遊ぶまちづくりの会
田んぼの学校

■準備風景

それぞれが展示パネルを作ってきてから、6日間の授業で、展覧会名を決め、ロゴやコンセプトデザインを決めて、WEB ページを制作したり、広報物を作りました。



ロゴデザイン中



WEB サイトの構成を説明中



チラシ製作中



WEB ページ製作中



ポスターを学内に展示中



普通の展示だった場合はこんな感じで展示予定でした



一緒に作ったメンバーと先生

■いただいた感想①

田んぼでお米育てて刈り取って食べるという体験を小学校の授業でやったのを思い出しました。わたしは九州のど田舎出身なので、東京でもこんな体験ができる場所があるのは素晴らしいことだと思います。こういう体験は都会の子供は特にどんどん遠ざかってしまっていることなので、昔から続くことだけど「発転」という言葉に繋げるのが秀逸だなと思いました。

" 近くにもこんな学校があったらいいのに～！と思いました。未長く続くことを願っています！ "

東京と聞くと、やはり都会というイメージもあるため、自然体験は少ないように感じていたので、とても素晴らしい取り組みですね！

たびたび野川公園を訪れていましたが、今度は田んぼものぞいてみようと思いました。実際に収穫・精米できるのがいいですね。お米の良さを体験できるいい機会だなと思いました。

写真が綺麗ですね^^取材内容や一年を通した田んぼの学校の活動もわかりやすくまとめられた構成になっていたと思います！リアル展示で見たかったです～ お疲れ様でした！ by マルシェ

古来から日本人の生活に深く関わって来た稲作を、誰もが身近に体験できる場がある。非常に貴重ですね。ヌルヌルとした土の心地よさ、カエルや虫たち、それを啄ばむ鳥。命と共に生きているのだと身体で理解できた時に、人は本当の意味で自然の大切さを学ぶと思います。これからの未来を担う子供たちに、どうか野川の田んぼの学校が存続できますように。

都会で田んぼを体験！お米なくしては語れない日本人ですが知らないことばかりで、作っている人のことを学ぶことの大切さを実感しました。獲れたての美味しいお米、つくたてのお餅、人のつながる要素がたくさん詰まっていますね。是非続けて欲しいです。

このような取り組みがあったことを知りませんでした。とてもいい取り組みですね！立ち上げた方や、参加されている方の意義を感じている様子が紙面から伝わってきました。田んぼを作る場所がなくなりそうな危機とのことで、ぜひ続けて欲しいです！

" 取材+web 展示お疲れ様でした！新潟県在住なのでとても親近感が湧く取材展示でした。

小学校時代に地域の田んぼで農作業を通した体験学習がありました。東京にもこのような取り組みがあることに驚きました。田んぼや農作業では生き物や生態系、地域社会など様々なことを学ぶことができる場所だと思うので、このような活動がさらに広がっていくと良いなと思いました！活動が今後も続くことを願っています。(小林) "

" 今回の展示で、一番好印象を受けました。インフォグラフィックスについてよく理解されていて、地図、グラフ、ピクトグラム、アイコン、フラットデザインといった要素が的確に盛り込まれた作品であると思いました。

野川周辺は私も興味があって、カワセミが観察できるという話を聞いて散歩したことがあります。

卒業制作も頑張ってください！ "

ご自身の生活圏を対象にされていることで、興味が湧きました。

今日、調布の知人が深大寺で新そばの種蒔きに参加したとFBで投稿していました。江戸東京野菜に認定されたそうです。新宿から特急で15分という地域でありながら自然が豊かに残っていて素敵ですね。コロナ禍でこの2年中止となりましたが、野川の桜のライトアップも見事な美しさ！魅力的な街ですね。

■いただいた感想②

" 佐藤さん、みましたよー！こんなステキな田んぼ活動してる人たちが調布にいるのですね！知らなかった！数少ない調布の田んぼですね。

そして春から活動していたとは...！滝山の田植えの時には聞かなかったので、驚きました！

写真も文もステキです。ぜんぶ取材したものなのかな？そうならば昨年1年間も取材したのでしょうか。すごい。この活動、どんどん繋がっていることがすごいですね。なんとか続けられる方法がうまつ見つかるといいなと思います。私もぜひ1度伺ってみたい（稲わらも欲しい...） "

ご自身の幼少時代の体験と子育て目線での体験から、「田んぼの学校」の利点と現状、今後の願いがグイグイ伝わってきました。言葉もレイアウトも視覚的メッセージがとても印象に残ります。利点のピクトグラム、好きです。「田んぼ学校」の12ヶ月、田植えと稲刈りはメジャーですが、その他にも手間ひまかかっていることがよくわかりました。案山子制作もユニークですね。「田んぼ学校」の良さや地域への貢献度、普段気が付かないことが、さとうさんの発信力で好奇心をかきたてられました。「田んぼ学校」の存続への力となるといいですね。

" 住んでいるからこそその地域密着情報、子育て世代の知育視線、環境や食糧等の視点、農業というフィールドワークとしての楽しみ、有機農法への知的好奇心等々、非常に楽しくも興味深い内容でした。

最後の農地確保問題は、貸与側農家さんのご事情等を知らないうえで意見を書くつもりはありませんが、うまく継続出来るようお祈りいたします。

「笑」転で伊藤さんに取材を受けた者として、住んでいる溝の口から頻繁に西東京エリアに出向くため、調布あたりも凄く近いです。地域課題に向き合う日々なので、大きなヒントを一つ頂けた、という思いです。今後も研究頑張ってください。今回取材お受けしたキャベツ確認中の番組「You got station!」とは別で、もう一つ番組立ち上げています。FM 西東京「突撃!! お昼の学校!」(武蔵境自動車教習所 提供) もしご興味あれば(アプリでも聴けるので) 聴いてみてください。西東京エリアの高校にお邪魔して、表現や発信の機会が減っている高校生にフォーカスしています。現在までに8校に取材にお邪魔し、それぞれの高校での取り組み等を、生徒さん中心に先生にも登場いただいて、皆さんに語っていただいています。すみません、PRになってしまいご容赦頂きたく思いますが、もし何かコラボ機会もあるかとも思い、不躰ながら記させて頂きました。 "

" 調布の野川沿いに住む2019年度卒業生です。子供2人が既に大人になっているせい？か〈田んぼの学校〉のこと、全く知りませんでした。身近にこんな素晴らしい活動をしている人たちがいることを教えていただきありがとうございました。展示パネルもとても詳しく書かれていて、みきさんの熱量が伝わりました。私もこの活動が今後も続いていくことを願っています。これから卒業まで引き続きがんばってください！ "

とても丁寧なパネルで見やすく良かったです。色合いが綺麗です。

一年間まるまる田んぼの学校があるのですね！素晴らしい取り組みだと思いました。校長先生の熱意にも頭が下がる思いです。新しい田んぼで学校が続いていけるといいですね。また、パネルが大変読みやすかったです。

手書きのロゴ、イラストのあたたかさや、濃い緑色で統一された各パネルで、「田んぼ」と「学校」のイメージがダイレクトに伝わってきてとてもよかったです。

試みについてだけでなく今このプロジェクトの置かれている状況まで取材されていて今後の田んぼ学校の活動が気になる記事でした。

きっと田んぼでのあれこれを通じて出会い、触れ合い、関わり、学び、経験、思い出、いろいろが生まれる場なのだろうな、、と想像しました。ちいさな娘がいるので体験させてやりたくなりました。

パネルを頭から読むとよく内容が理解できました。全体的に緑を使ってシンプルに、余白の取り方も良かったです。

■いただいた感想③

" 田んぼの学校なんてあるんですね。。！

現代の子どもや大人でも、田んぼを体験する機会は中々ないものだと思います！

パネルのデザインも丁寧に作られており、さすがだと思いました！！ "

「田んぼの学校」のことは知っていたのですが、さとうみきさんの“転”を見せていただき、より深く知ることができました。“点”と“点”がつながり、尾辻さんの30年の活動の重みが伝わってきます。今、危機をむかえていらっしゃるとのこと。活動がさらに“転”じていかれますよう、陰ながら応援しております。この“転”示パネルを、ぜひ実際に多くの方にご覧いただくチャンスがあるといいですね。さとうみきさんのますますのご発“転”をお祈りしております。本日はありがとうございました。

" 展覧会お疲れ様でした。私自身、東京生まれ東京育ちということもあり、田んぼに触れる機会がほとんどなかったのですが、こうして改めて田んぼ作りをみると、普段から食べているお米のありがたさを知るとともに、自分も何か挑戦してみようかな？と思えるとてもいいパネルだと思いました！ "

自分は多摩地区育ちで、野川も友人とサイクリングなどした記憶があります。のどかで多摩地区らしさが残っている地域ですね。地域の特性を活かした活動を継続的に、そして広がりをもって展開できれば、その地域の良さを残していけると思います。今回取材された取り組みも地域の良さを残すのに大きく貢献してる取り組みだと感じました。Web 班お疲れ様でした。

" パネル制作、WEB 展おつかれさまでした！

一緒に参加できてたのしかったです。ありがとうございました。

「田んぼの学校」は面白い取り組みですね！

わたしは小学2年生まで田んぼが無限にあるような田舎で育て、その後埼玉県草加市に引っ越してきたので興味が湧きました。田舎の風景、1年通して田んぼの変化を見守ることができるってなかなか都会では体験できないものだとわかります。学校の帰り道に田んぼの縁を歩いて落ちこちたのも良い経験です。

パネルのタイトル・春夏秋冬・イラストなどの手書きがとてもいい！

パネルの雰囲気と合っていますよね。全体的に素敵な緑色のトーンで統一されているのも美的だと思いました。

田んぼの学校ぜひ危機を乗り越えて今後も活動を続けていただきたいと願っています！ "

「田んぼやりたい！」の一言でここまでの活動になるなんて、まさに「発転」ですね。東京は都会というイメージだったのですが、こういった取り組みがあるんですね。20年でほぼ半分も農地が減ったのは驚きです。精米されたお米、レンジでチンしてすぐ食べれるお米パックが売られている中で、「米」ができる工程が見れる体験は貴重です。子供たちが参加して、自分たちが食べているお米がどんな流れで出来上がるのか知れるのはとてもいいですね。だからこそ、これからも続いて欲しいです。うまくいくことを願っています。パネルについて、緑で統一されてとても綺麗なデザインで読みやすいです！手書き文字も可愛くて素敵です。ぜひパネルにはって飾ったのを見てみたかったです。スクーリングおつかれさまでした！

さすがプロでデザインをされていることもあり、写真や文字のレイアウトやその他細かい部分まで拘って制作されているのが素人目にもわかる素敵なパネルでした。内容も田んぼで田植えが1から学べるのが詳しくかかれており興味深かったです。WEB ページもとても見やすくしていただき勉強になりました！本当に有難うございました！